

平成 28 年度学長戦略経費（重点分野研究プロジェクト）進捗状況報告

（平成 29 年 3 月）

報告者氏名・所属	奥田知靖・岩見沢校	
研究プロジェクトの名称	多様なスポーツへの発展可能性をもつ種目横断的基礎的運動能力を育成するスポーツ指導者養成プログラム	
プロジェクト担当者 (氏名・所属・職) ※代表者に●を付すこと	<ul style="list-style-type: none"> ●奥田知靖 岩見沢校・准教授 森田憲輝 岩見沢校・准教授 安部久貴 岩見沢校・講師 大山祐太 岩見沢校・講師 山本理人 岩見沢校・教授 志手典之 岩見沢校・教授 佐藤 徹 岩見沢校・教授 	
研究プロジェクトの概要等		
<p>近年、子どもの体力・運動能力の低下は社会問題の一つになっている。この要因として、屋外での遊びを通じた身体活動経験の乏しさが指摘されており（鈴木ほか，2009），幼少期からの運動・スポーツ習慣の形成は重要な課題となっている。この一方で，ボールゲーム現場では，基本的な体力や運動能力を身につけていない子どもが，専門種目の複雑な技術練習に取り組むことが，早期のドロップアウトの原因になったり，期待されるような才能を開花させたりすることができない危険性を孕んでいることが指摘されている（木村，2007）。このような背景から，近年では，生涯にわたりスポーツを楽しむこととアスリート育成の両観点から，子どもの発達段階を考慮した指導内容や楽しみながら学習することの重要性が指摘されている（Rothほか，1999）。しかし，現在でもボールゲーム種目の早期専門化の問題が絶えないことから，既存のスポーツ指導者育成プログラムの限界があると考えられる。具体的には，幼少期のスポーツ指導理論に関するカリキュラムが内容的に不十分な可能性や，たとえ十分であったとしても一般的な指導者講習会の方法（講義と実技で構成）では，実践的な指導能力の獲得は困難である可能性がある。また，子どもの外遊びの減少など運動・スポーツ離れも依然として社会問題になっていることから，スポーツ指導者だけでなく保護者を中心とした社会全体で幼少期のスポーツの理解を進める必要があると考えられる。</p> <p>したがって，本プロジェクトでは，上記の問題点の解決に向けて，まず幼少期のスポーツの専門的知識と実践的能力を身に付けた指導者を育成するプログラムの開発を目指し，次に，そのプログラムを幼少期のスポーツ指導理論・実践方法論における保護者の理解を進めるプログラムにまで発展させることを目的とする。</p> <p>この目的を達成するために，3年間の計画で以下の3つの課題に取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) スポーツ科学理論に裏付けられた幼少期のスポーツ指導に関する理論およびその実践的な指導方法論の体系化，および保護者のスポーツへの認識の調査を実施し，指導者講習会向けの冊子を作成する。これに加えて，家庭等での運動・スポーツ支援に役立つ手軽に読めるリーフレットを作成する。 2) 幼少期の運動に関する正しい知識と実践力を身につけた指導者を養成するプログラムを開発する。これには，一般的な指導者講習会で実施される講義と実技での構成のみならず，実際の子どもの対象とした複数回の指導実践と，その際の指導能力の評価およびフィードバックが可能なプログラムを開発する。 3) スポーツ指導者だけでなく，社会全体に対して幼少期のスポーツ指導理論の理解を促進させるために，家庭での外遊び等の運動・スポーツ支援する簡単なプログラムを開発し，実践する。 		
進捗度	1	←番号を記入 1. 順調に進んでいる 2. ほぼ順調に進んでいる 3. やや遅れ気味 4. 遅れ気味

(進捗度が3若しくは4の場合、問題点等の理由を記入願います。)

研究実績の概要

平成28年度の課題は、指導者育成プログラム作成に向けた資料収集であった。今年度の主な取り組み内容について以下に示す。

1. 基礎的資料の収集と子どものスポーツ指導者養成に関するヒアリング調査

- 1) 子どもの運動能力の発達に関する資料、保護者のスポーツ教室への意識調査、および各種スポーツの指導者養成に関する資料についてプロジェクト担当者がそれぞれ調査の上、2016年12月2日に北海道教育大学内でミーティングを開催した。その結果、子どもの運動発達、子どものボールゲーム指導に関する基礎的資料については概ね準備済みであり、これらを体系化が進められる状況であることが確認された。
- 2) 2016年12月8日(木)～14日(水)にドイツ・ハイデルベルク大学スポーツ科学研究所にて、同大学で開発された子どものボールゲーム能力育成プログラム「バルシューレ(Ballschule)」を視察した。そして、バルシューレの指導者養成制度に関して、開発者のKlaus Roth教授にヒアリング調査をした。この結果、子どもの運動能力に関して、ボールゲームに特化した運動プログラムであるバルシューレ以外に、すべてのスポーツに発展する「マルチスポーツ」の情報を得た。また、指導者養成制度に関して、すでに指導者資格を取得した指導者に対する再教育の必要性およびその方法論に関する情報を得た。

2. スポーツ指導の行動観察と指導者へのアンケート調査

- 1) 子どものスポーツ教室を実施し、北海道教育大学の学生が継続的に指導にあたった。実施したスポーツ教室は、バルシューレ(1歳半～3歳クラス：計6回、3歳～5歳クラス：計12回、6歳～8歳クラス(計12回)、バスケットボール教室(小学校1～6年：計12回)、バレーボール教室(幼児～中学生：計15回)であった。これらのクラスのうち、バルシューレ教室(1歳半～3歳クラスを除く)の指導者には、事前にプログラムの内容および指導理論の研修会を実施した。そして、指導時における行動の変容について、ビデオカメラで録画し、指導者の行動変容に関する基礎的資料を得た。
- 2) 上記の指導者に指導継続による意識の変容に関するアンケート調査を実施した。調査項目は、年齢・性別等の基本的属性、指導継続期間および指導回数、知識の変化、子どもとの関わりの変化、プログラム運営方法の変化、指導経験の今後への活用であった。調査対象者は、年齢：20.8±1.2歳、性別：男23名、女15名、指導回数：12.2±12.6回であった。アンケートおよび行動分析の結果、継続的および他年代の子どもへの指導を行うことで、①指導理論の理解が深まること、②学習した指導理論を実践につなげること、③子どもの発達段階に応じた声かけの方法、④スムーズな運営のための他の指導者との連携、⑤用具や場の設定の方法、の5点に大きな変化を感じている傾向が伺えた。また、これまでの指導経験は、将来の教育活動(教員、スポーツクラブ指導者、スポーツイベント)において有効だと感じている意見が多く見られた。

3. 研修会等での資料活用

本プロジェクトで得られた資料を活用し、地域での研修会を引き受け、大学にて研修会を開催した。この他資料を活用した場面は、弘前市保育研究会・青森県保育連合会津軽南支部合同保育士研修会(2016年10月25日、弘前市)、体力向上先導的総合実践事業資料(2017年1月25～26日、利尻町)、バルシューレ講習会・体験会(2017年2月18～19日、北海道教育大学岩見沢校)、親子でミニバルシューレ(2017年3月1日、岩見沢市保健センター)であった。

今後の研究プロジェクトの推進計画

今後のプロジェクトの推進計画を以下の2点にまとめた。

- 1) 幼少期のスポーツ指導に関する理論およびその実践的な指導方法論の体系化，および指導者講習会向けの冊子を作成する。これに加えて，手軽に読めるリーフレットを作成する。また，これらの結果を公表するホームページの運用も進める。
- 2) 正しい知識と実践力を身につけた指導者を養成するプログラムを開発する。一般的な指導者講習会で実施される講義と実技での構成のみならず，実際の子どもの対象とした複数回の指導実践と，その際の指導能力の評価およびフィードバックが可能なプログラムを開発する。

教育現場や地域で活用可能な成果等

- 1) 現在までに得られた資料を体系化することで，学校体育および地域スポーツの分野において，現職教員・地域のスポーツ指導者が新たな指導理論の習得や指導技術のスキルアップのための研修の際に利用可能である。
- 2) 地域の課題である子どもの運動不足や体力向上に対応し，岩見沢市教育委員会主催の「キッズ・スポーツ」事業や岩見沢市の保健センターとの連携事業である「ミニバルシューレ」において，プログラムの実践に寄与した。

研究成果の公表実績

【著書】

特になし

【学術論文】（投稿中も含む）

大山祐太・奥田知靖. 運動プログラム「Ballsschule（バルシューレ）」が幼児の社会的スキルに及ぼす影響－保護者アンケートを通じた検討－. 日本アダプテッド体育・スポーツ学会投稿. 12月17日受理. 2017年6月15巻1号掲載予定.

【学会発表、シンポジウム、セミナー、演奏会、展覧会、競技会、普及啓発イベント等】

Tomoyasu OKUDA, Noriteru MORITA, Hisataka AMBE, Noriyuki SHIDE, Toru SATO et al. The analysis of tactical skills of lower grade elementary school in a ball game. The 21st European College of Sport Science. Vienna.

Hisataka AMBE et al. Relationship between Coach Feedback and Self-Perceived Sport Competence in Collegiate Male Soccer Players. The 21st European College of Sport Science. Vienna.

奥田知靖・森田憲輝・安部久貴・佐藤徹ほか. 小学生のゴール型ボールゲーム種目における戦術的能力の評価. 日本体育学会. 平成28年8月24～26日. 大阪.

安部久貴ほか. 運動部活動指導時における指導者の声かけと期待の関係性. 日本体育学会. 平成28年8月24～26日. 大阪.

志手典之・森田憲輝・奥田知靖. 小学生における多機能運動能力評価のための新規テスト（N Challenge）と新体力テストの関係-N Challenge による年間を通じた体力測定実施の可能性について-. 日本体育学会. 平成28年8月24～26日. 大阪.

志手典之・奥田知靖・森田憲輝. 小学生におけるSAQ能力とBSSC遂行能力の発達および男女差について. 平成28年9月23日（金）～25日（日）. 岩手.

森田憲輝・奥田知靖・志手典之ほか. 学校低学年児童における敏捷性と抑制機能との関連性. 平成28年9月23日（金）～25日（日）. 岩手.

【テキスト、報告書、研修資料等】

弘前市保育研究会・青森県保育連合会津軽南支部合同保育士研修会資料，2016年10月25日，弘前市，70部。

体力向上先導的総合実践事業資料，2017年1月25～26日，利尻町，30部。

バルシューレ講習会・体験会資料，2017年2月18～19日，北海道教育大学岩見沢校，40部。

親子でミニバルシューレ資料，2017年3月1日，岩見沢市保険センター，20部。

添付資料

ダウンロード可能な ドキュメント	なし
関連URL	http://www2.hokkyodai.ac.jp/iwa/user/?uid=shide http://www2.hokkyodai.ac.jp/iwa/user/clist_view.php?uid=shide&cid=249 http://www.hokkyodai.ac.jp/iwa/user/opr/ （平成 29 年度より運用開始予定）
問い合わせ先	氏 名：奥田知靖 電 話：0126-32-0342 E-mail：okuda.tomoyasu@i.hokkyodai.ac.jp